平成29年度事業計画及び収支予算の概要

血液事業特別会計

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1．平成28年度 主な取り組みと課題

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
事業運営体制の充実	広域事業運営の推進、改善の風土づくり、早期経営改善	各血液センターの改善委員会の設置と事業改善マネジメント体制の実施	・ブロック単位の効果的事業の推進 ・採血の役割分担 ・採血効率の向上
献血者の確保対策	若年層の献血率向上	年代別目標値には未達	・ブロック及び地域C毎の具体的確保対策（複数回献血等）の推進
血液製剤の安全性の向上	新興感染症等への対策、輸血副作用の軽減	個別NAT導入以降の輸血後HCV、HIV感染は0件、HBV感染は1件	・洗浄血小板製剤の導入 ・ウイルス低減化技術等の検討

２．平成29年度事業計画の方針

事業環境

・少子化による若年層人口の減少
・輸血の安全性向上へのさらなる期待

基本戦略

・将来の献血者層となる若年層の啓発を推進する。
・血液製剤の安全性向上に取り組む。
・採血から供給に至る事業効率を改善する。

主な施策

（１）事業改善の推進

（２）健全な財政の確立

（３）献血者の安定的確保

（４）血液製剤の安全性向上

けんけつちゃん

平成29年度　採血・製造・供給計画（概要）

献血受入

- 400mL献血、成分献血を中心に**479万人**の協力を受入

検査・製造

- 需要に見合う**1,762万本**の血液製剤を製造
- 原料血漿を製薬会社に**96.5万L**送付

本数は200mL献血由来を1本とした換算数

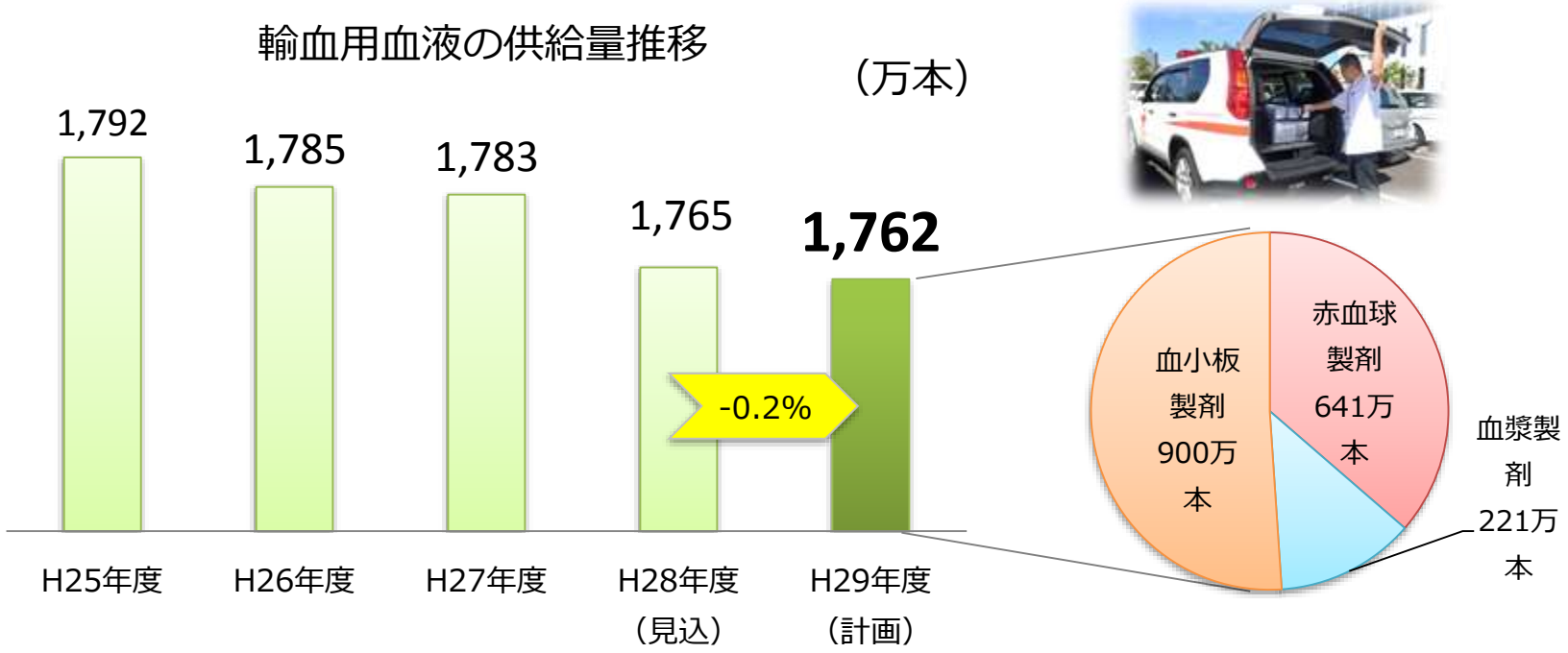
血液製剤供給

- 全国1万ヶ所の医療機関に、**24時間365日**迅速に血液製剤を供給

３．各施策について

（1）事業改善の推進

状況　**輸血用血液の需要の減少傾向**



輸血を必要とする患者の減少等が背景にある

今後　さらなる改善活動の実践及び定着化

改善の４領域と取り組み（一部）

事業
- マネジメント指標の設定
- 400mL献血率向上
- 血小板分割製造増加
- 業務の最適化への取り組み

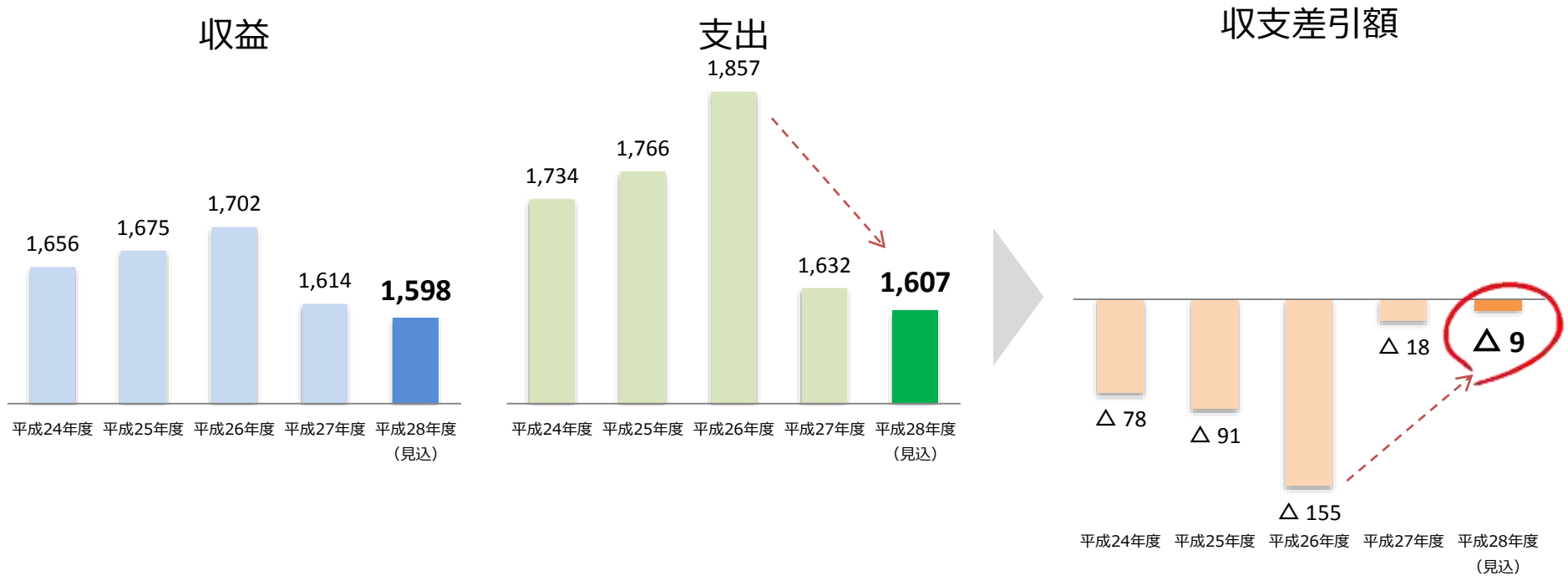
財政
- 経費、材料費の抑制
- 予算執行管理の徹底

組織
- ブロックセンター組織の見直し
- 人事給与事務の集約化検討

意識
- 改善活動リーダー研修会の開催

（2）健全な財政の確立

状況　支出構造の見直しによる赤字額減少



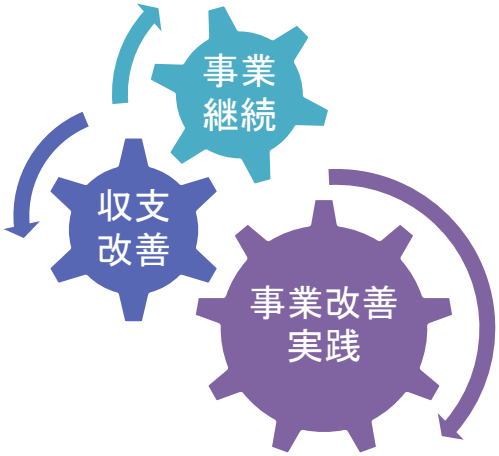
平成28年度決算は、9億円の赤字見込

今後　収支改善の一層の進行

- 平成27年度△18億円、28年度△9億円（見込）と赤字決算ではあるが、改善傾向にある。
- 平成29年度は職員数の適正化及び時間外勤務抑制等による人件費削減、更なる事業改善による経費削減を行うことで収支均衡（以上）を目指す。

取り組みの一部

- 職員数の適正化等による人件費削減
- 効率的な採血推進による材料費削減
- 輸送ルート等の契約内容見直しによる経費削減



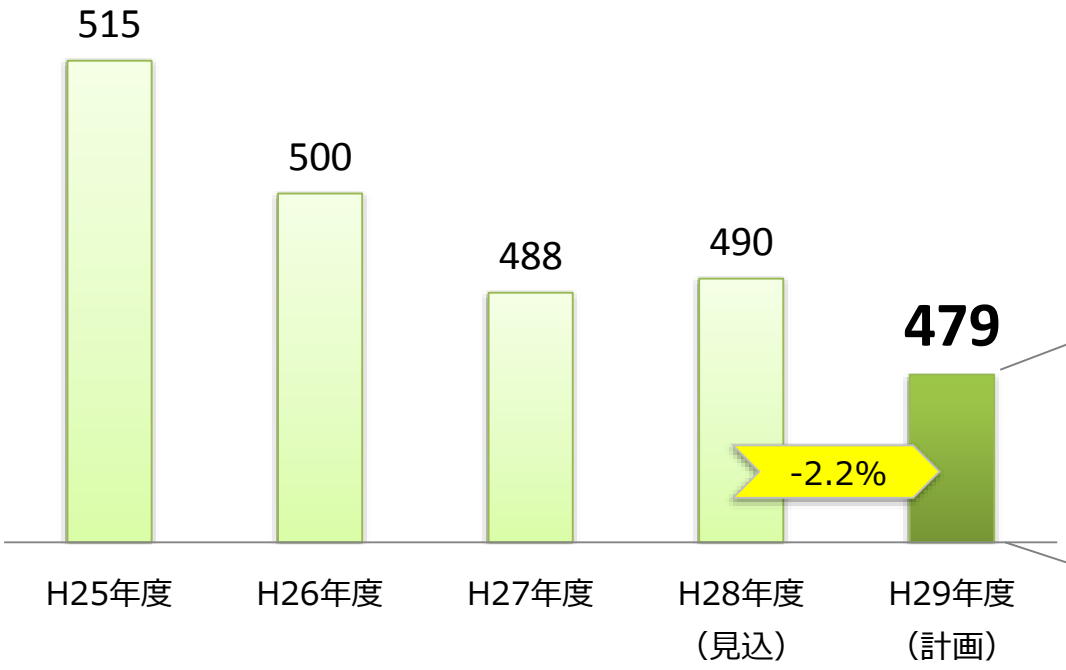
（3）献血者の安定的確保

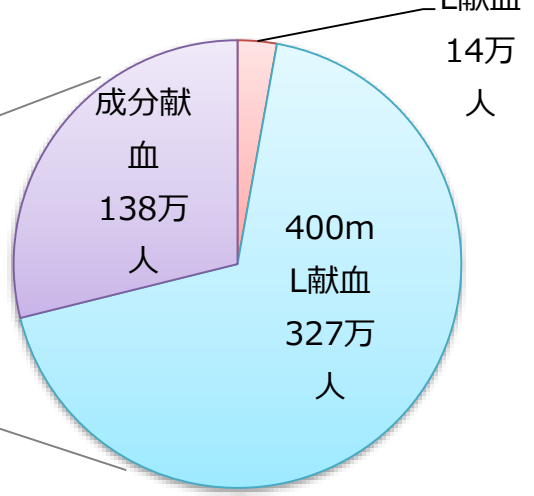
状況

需要に見合った血液量の確保

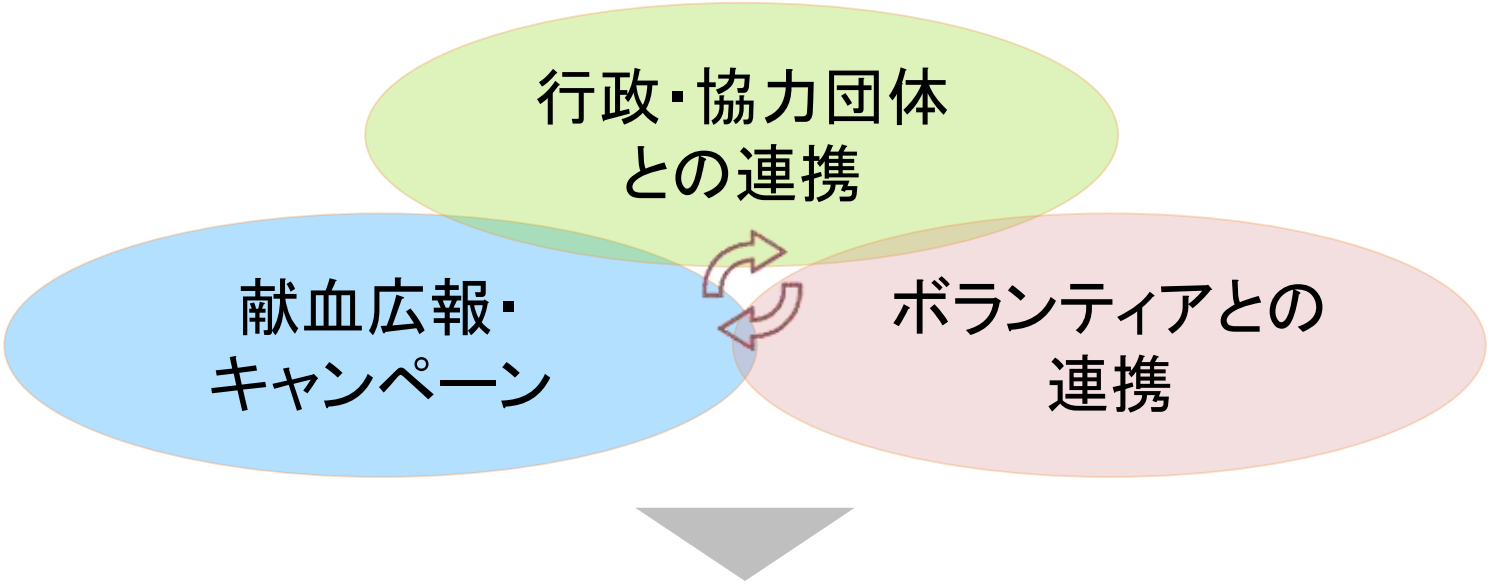
献血者数の推移

単位：万人





今後　赤十字の資源を活かした若年層への推進



学校での献血セミナー

広報キャンペーン

大学運動部の献血協力

行政・協力団体との連携

① 教育現場での献血セミナー
② 献血協力企業の拡大
③ 首長からのメッセージ発信

献血広報・キャンペーン

① 献血未経験者への動機づけ
② 複数回献血（年2回～）の促進
③ 輸血を受けた患者からのメッセージ

ボランティアとの連携

① 大学等の学校献血の強化
② ボランティアリーダーの研修
③ 全国学生クリスマス献血キャンペーン

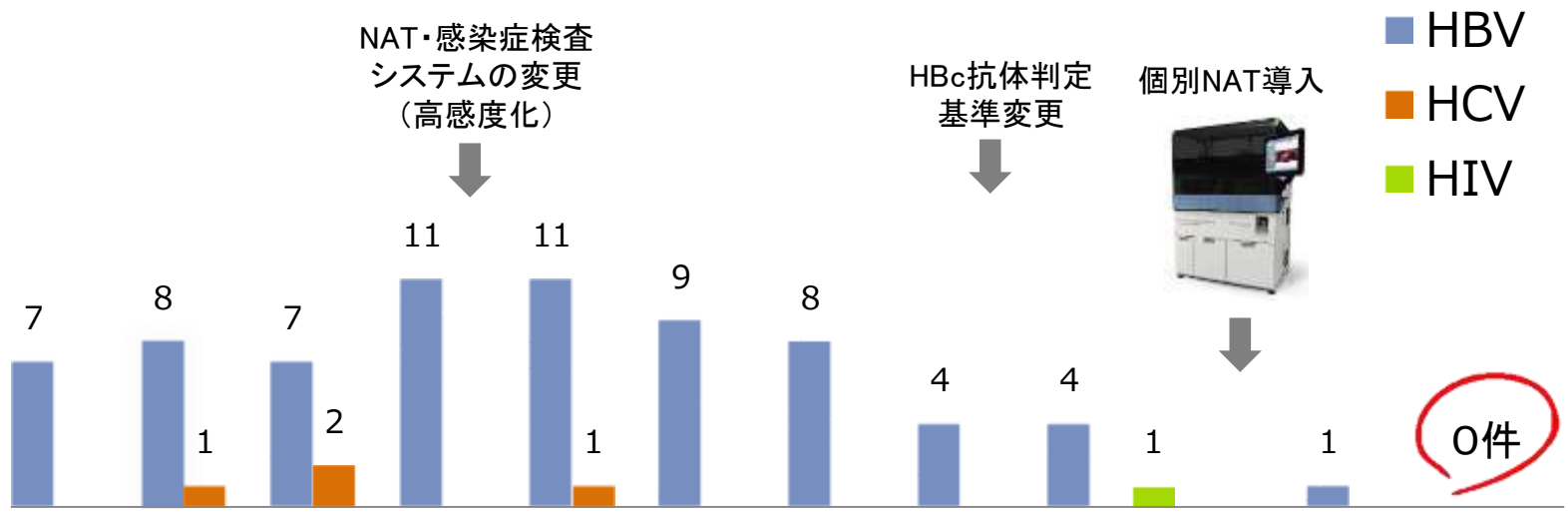
献血協力団体（一部）

（4）血液製剤の安全性向上

状況　**輸血後感染症のリスク低減**

輸血感染症（HBV・HCV・HIV）の推移

（年は採血年）



	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
HBV	7	8	7	11	11	9	8	4	4	0	1	0
HCV	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
HIV	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

参考：年間の輸血患者数は約95万人（H26　日本輸血・細胞治療学会調べ）

今後

新たな感染症対策の検討

デング熱やジカ熱等の新興・再興感染症は、輸血感染の可能性があるため、新たな検査の実施や、混入した病原体等の感染性を低減化する技術の導入等を検討

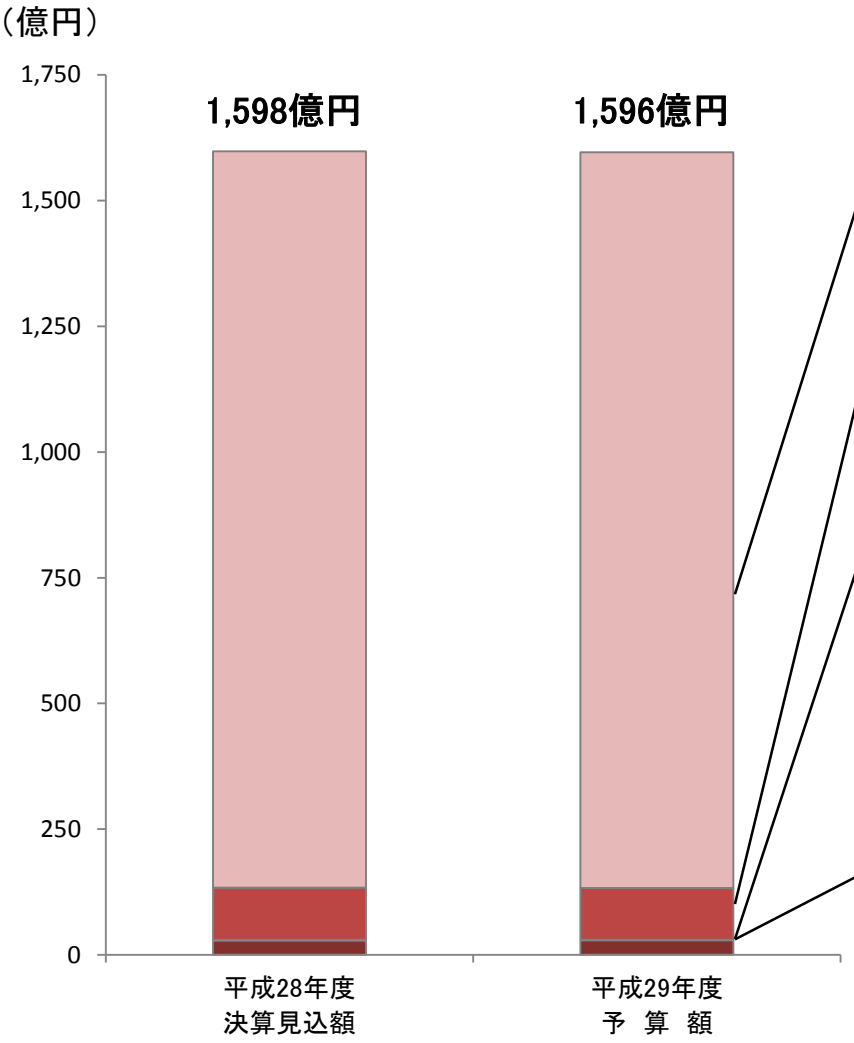
デング熱等の感染源となる蚊

シャーガス病の感染源となる原虫

新興・再興感染症例

デングウイルス、ジカウイルス、マラリア、シャーガス原虫、チクングニアウイルス、ウエストナイルウイルス、SARS、バベシア原虫

4. 血液事業特別会計収益的収入のあらまし



輸血用血液製剤供給収益
［ 1,464.3億円　→　1,463.0億円］　△ 0.1%

原料血漿供給収益
［　103.5億円　→　102.7億円］　△ 0.8%

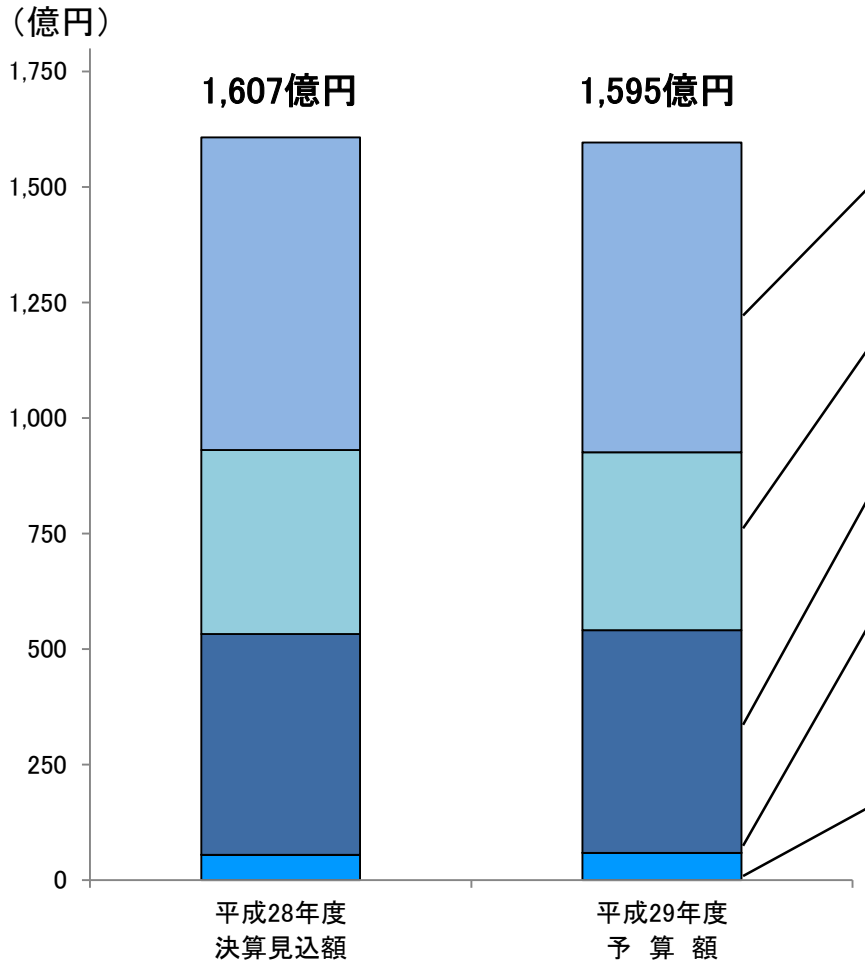
その他事業収益
［　1.7億円　→　1.3億円］　△ 23.5%

事業外収益
［　13.0億円　→　12.6億円］　△ 3.1%

関連事業収益
［　15.3億円　→　16.1億円］　5.2%

	平成28年度決算見込		平成29年度予算	増減額	増減率
収益的収入合計	1,598億円	→	1,596億円	△2億円	△0.1%

5. 血液事業特別会計収益的支出のあらまし



人件費
［ 677.0億円 → 670.1億円］ △ 1.0%

材料費
［ 398.0億円 → 385.4億円］ △ 3.2%

経　費
［ 477.7億円 → 480.8億円］ 0.6%

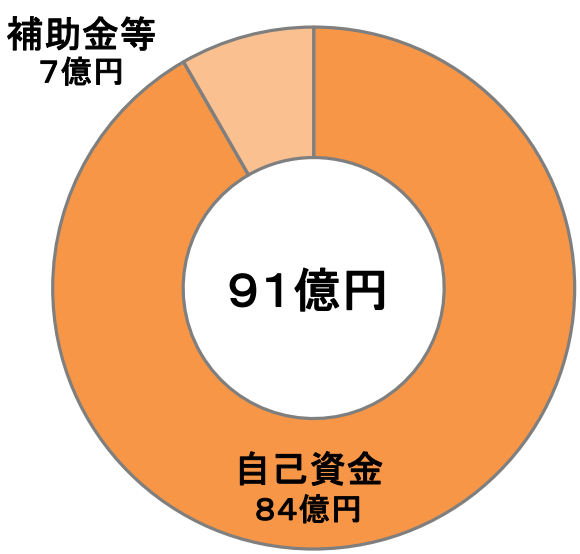
その他供給原価
［ 0.07億円 → 0.08億円］ 14.3%

事業外費用
［ 34.9億円 → 35.1億円］ 0.6%
関連事業費用
［ 16.7億円 → 18.7億円］ 12.0%
特別損失
［ 2.9億円 → 5.4億円］ 86.2%
法人税等
［ 0.05億円 → 0.09億円］ 80.0%

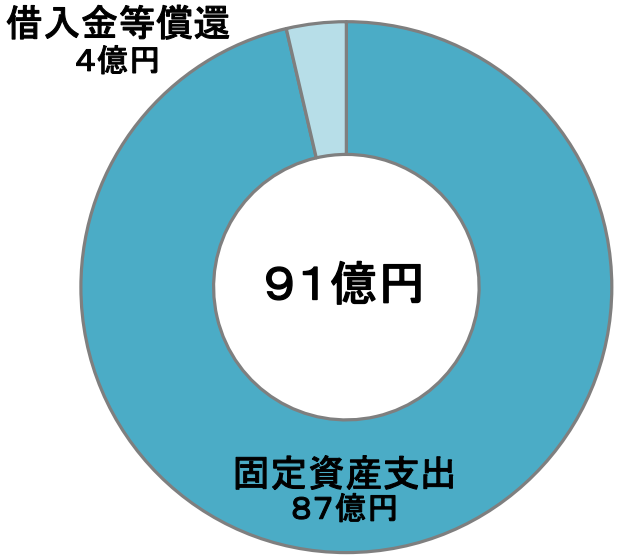
	平成28年度決算見込		平成29年度予算	増減額	増減率
収益的支出合計	1,607億円	→	1,595億円	△12億円	△ 0.7%
収支差引額	△9.4億円	→	0.1億円	9.5億円	

6. 血液事業特別会計資本的収支のあらまし

【平成29年度収入】



【平成29年度支出】



資本的支出

内　容	金　額
血液センターの施設整備等	39.3億円
成分採血装置、全血採血装置、血液保冷庫等の機械整備	22.2億円
移動採血車、献血運搬車等の車両整備	8.0億円
血液事業情報システム改修・データセンター更新、献血者管理システム開発、全社系情報システム構築、造血幹細胞事業システム開発等	17.6億円